

法令及び定款に基づくインターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書
連 結 注 記 表
株主資本等変動計算書
個 別 注 記 表

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

三菱化工機株式会社

「連結株主資本等変動計算書」、「連結注記表」、「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、当社ウェブサイト (<http://www.kakoki.co.jp>) に掲載することにより株主の皆様提供しております。

連結株主資本等変動計算書（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	3,956	4,200	11,537	△125	19,568
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△395		△395
親会社株主に帰属する当期純利益			1,860		1,860
自 己 株 式 の 取 得				△471	△471
自 己 株 式 の 処 分		△0		6	5
利益剰余金から資本剰余金への振替		0	△0		－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					－
当 期 変 動 額 合 計	－	－	1,464	△465	999
当 期 末 残 高	3,956	4,200	13,001	△591	20,567

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					非 支 配 株主持分	純資産合計
	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	4,191	0	△245	△1,187	2,758	－	22,326
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当					－		△395
親会社株主に帰属する当期純利益					－		1,860
自 己 株 式 の 取 得					－		△471
自 己 株 式 の 処 分					－		5
利益剰余金から資本剰余金への振替					－		－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△1,524	△7	△7	△569	△2,108	41	△2,066
当 期 変 動 額 合 計	△1,524	△7	△7	△569	△2,108	41	△1,067
当 期 末 残 高	2,666	△7	△252	△1,756	650	41	21,259

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結注記表

【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

連結子会社の名称 化工機プラント環境エンジ(株)、化工機商事(株)、
MKK Asia Co., Ltd. (タイ)、MKK EUROPE B.V. (オランダ)

連結子会社であった(株)菱化製作所は、化工機プラント環境エンジ(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当連結会計年度より、連結の範囲から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称 菱化機械技術（上海）有限公司 (連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

なお、菱化貿易（上海）有限公司は2019年10月17日付で社名を菱化機械技術（上海）有限公司に変更しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用している非連結子会社及び関連会社はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称 菱化機械技術（上海）有限公司 (持分法を適用しなかった理由)

非連結子会社及び関連会社は、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社のうちMKK Asia Co., Ltd. 及びMKK EUROPE B.V. の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同社決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの……………連結決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法に

より算定)

時価のないもの……………総平均法による原価法

②デリバティブ

時価法

③たな卸資産

製品、材料及び貯蔵品……………移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品……………個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法、ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

②無形固定資産

定額法、なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売掛金、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度負担額を計上しております。

③役員賞与引当金

役員の賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。

④工事補償引当金

売上完了工事の引渡後発生する補償工事の支出に備えるため、過去2年間の実績基準に将来の補修見込を加味して計上しております。

⑤受注工事損失引当金

工事の損失に備えるため、当連結会計年度末の未引渡工事のうち、損失が発生することが見込まれ、かつ、損失額を合理的に見積ることが可能な工事について、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。

⑥PCB処理引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる金額を計上しております。

⑦役員報酬BIP信託引当金

役員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間（13年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（11～13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を採用し、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

為替予約……………輸出入取引

金利スワップ……………借入金の利息

③ヘッジ方針

デリバティブ取引は全て実需に関する取引に限定し、輸出入取引に係る相場変動の相殺及び将来の支払利息に係る金利変動リスクの低減を目的としております。

④ヘッジ有効性の評価

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。また、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段の通貨種別、行使日、金額等の条件がほぼ同一であり、相関関係が高いことから、有効性の評価を省略しております。

(7) 収益及び費用の計上基準

①当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）

②その他の工事
工事完成基準

(8) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【連結貸借対照表に関する注記】

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 投資有価証券	4,937百万円
担保に係る債務 短期借入金	一百万円
(2) 有形固定資産	
建物及び構築物	1,125百万円
機械装置及び運搬具	279百万円
土地	59百万円
計	1,463百万円
担保に係る債務 長期借入金	800百万円
計	800百万円

2. 有形固定資産の減価償却累計額

11,588百万円

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数 普通株式 7,913,950株

2. 配当金支払額に関する事項

2019年6月27日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

株式の種類	普通株式
配当金の総額	395百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	50円
基準日	2019年3月31日
効力発生日	2019年6月28日

(注) 2019年6月27日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

3. 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるものに関する事項

2020年6月26日開催の定時株主総会の議案として、配当に関する事項を次のとおり提案しております。

株式の種類	普通株式
配当金の総額	461百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	60円
基準日	2020年3月31日
効力発生日	2020年6月29日

(注) 2020年6月26日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用につきましては、短期的な預金にて運用することとし、資金調達につきましては、銀行等金融機関からの借入による方針であります。デリバティブ取引は、金利及び為替変動リスクの回避を目的として利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務は、1年以内の支払期日です。

外貨建ての営業債権債務については、為替の変動リスクに晒されております。

借入金は、主に運転資金に係る資金調達であり、短期借入金については、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行とコミットメントライン契約及び取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

上記の営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループでは、個別案件ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、与信管理に関する社内規程に基づき、新規取引開始時及び継続的取引について、取引先の与信審査を行うことで信用リスクに備えております。

デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建ての営業債権債務については、為替の変動リスクをヘッジするため、先物為替予約取引を行っております。また、長期借入金の一部については、支払金利の変動リスクを回避し、支払利息の固定化をはかるため、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価を把握しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従っており、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）

当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により流動性リスクに備えております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注2）参照）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額（＊）	時 価（＊）	差 額
(1) 現金及び預金	9,263	9,263	—
(2) 受取手形及び売掛金	18,378	18,378	—
(3) 電子記録債権	1,394	1,394	—
(4) 投資有価証券	7,280	7,280	—
(5) 支払手形及び買掛金	(8,188)	(8,188)	—
(6) 電子記録債務	(2,597)	(2,597)	—
(7) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	(3,300)	(3,313)	(13)
(8) デリバティブ取引	(10)	(10)	—

（＊）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金並びに(3) 電子記録債権

これらは通常1年以内の短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、一部の外貨建売掛金について為替予約の振当処理を行っており（下記(8) 参照）、当該売掛金の時価は、ヘッジ手段である為替予約と一体として算定する方法によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

投資有価証券は、その他有価証券として保有しております。

(単位：百万円)

	種 類	連結貸借対照表 計 上 額	取 得 原 価	差 額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株 式	6,303	2,094	4,208
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株 式	977	1,380	△402
合 計		7,280	3,475	3,805

(5) 支払手形及び買掛金並びに(6) 電子記録債務

これらは通常1年以内の短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、一部の外貨建買掛金について為替予約の振当処理を行っており（下記(8) 参照）、当該買掛金の時価は、ヘッジ手段である為替予約と一体として算定する方法によっております。

(7) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入は、金利スワップの特例処理の対象とされており（下記(8) 参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割引いて算定する方法によっております。

(8) デリバティブ取引

デリバティブの時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております（上記(7) 参照）。

為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金または買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金または買掛金の時価に含めて記載しております（上記(2)及び(5) 参照）。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区 分	連 結 貸 借 対 照 表 計 上 額
非上場株式	205

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積るには過大なコストを要すると見込まれます。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

【1 株当たり情報に関する注記】

1. 1株当たり純資産額 2,795円96銭
2. 1株当たり当期純利益 238円57銭

(注) 当社は役員向け業績連動型報酬制度を導入しており、役員報酬B I P信託が保有する当社株式を、1株当たり情報の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。なお、当連結会計年度において信託が保有する期末自己株式数は96,508株、期中平均自己株式数は88,157株であります。

【企業結合に関する注記】

(共通支配下の取引等)

当社グループは、2019年4月1日付で当社、化工機プラント環境エンジ(株)及び(株)菱化製作所の間で以下の組織再編を実施いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業または対象となった事業の名称及びその事業の内容

①(株)菱化製作所の吸収分割

- ・吸収分割承継会社：当社
- ・吸収分割事業：(株)菱化製作所の油清浄機販売事業

②化工機プラント環境エンジ(株)による(株)菱化製作所の吸収合併

- ・吸収合併存続会社：化工機プラント環境エンジ(株)
- ・吸収合併消滅会社：(株)菱化製作所

③当社の四日市及び鹿島両工場の工事等事業の吸収分割

- ・吸収分割承継会社：化工機プラント環境エンジ(株)
- ・分割対象事業：当社の四日市及び鹿島両工場の工事業及びプラント事業の一部アフターサービス事業

(2) 企業結合日

2019年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

①(株)菱化製作所（吸収分割会社）の当社油清浄機販売事業の当社（吸収分割承継会社）への吸収分割

②化工機プラント環境エンジ(株)（存続会社）による(株)菱化製作所（消滅会社）の吸収合併

（結合後企業の名称は化工機プラント環境エンジ(株)）

③当社（吸収分割会社）の四日市及び鹿島両工場の工事事業及びプラント事業の一部アフターサービス事業の化工機プラント環境エンジ(株)（吸収分割承継会社）への吸収分割

(4) その他取引の概要に関する事項

当社グループにおけるメンテナンス事業の一層の強化及びグループ内での経営リソース最適化を推進し、グループ全体としての収益の安定化並びに収益力強化をはかるため、グループ内再編の一環として実施したものです。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成31年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理いたしました。

（注）各注記の記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計		
						研究開発基金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当 期 首 残 高	3,956	4,202	－	4,202	840	500	2,049	5,771	9,161	△125	17,195
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当				－				△395	△395		△395
当 期 純 利 益				－				1,261	1,261		1,261
会社分割による減少				－				△59	△59		△59
自 己 株 式 の 取 得				－					－	△471	△471
自 己 株 式 の 処 分			△0	△0					－	6	5
利益剰余金から資本剰余金への振替			0	0				△0	△0		－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				－					－		－
当 期 変 動 額 合 計	－	－	－	－	－	－	－	805	805	△465	340
当 期 末 残 高	3,956	4,202	－	4,202	840	500	2,049	6,576	9,966	△591	17,535

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当 期 首 残 高	4,051	0	4,051	21,246
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				△395
当 期 純 利 益				1,261
会社分割による減少				△59
自 己 株 式 の 取 得				△471
自 己 株 式 の 処 分				5
利益剰余金から資本剰余金への振替				－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△1,496	△7	△1,504	△1,504
当 期 変 動 額 合 計	△1,496	△7	△1,504	△1,164
当 期 末 残 高	2,554	△7	2,546	20,082

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

個別注記表

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式……総平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

時価のないもの……総平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産

製品、材料及び貯蔵品……移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品……個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法、ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

(2) 無形固定資産

定額法、なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき、当事業年度負担額を計上しております。

(3) 工事補償引当金

売上完了工事の引渡後発生する補償工事の支出に備えるため、過去2年間の実績基準に将来の補修見込を加味して計上しております。

(4) 受注工事損失引当金

工事の損失に備えるため、当事業年度末の未引渡工事のうち、損失が発生することが見込まれ、かつ、損失額を合理的に見積ることが可能な工事について、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間（13年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（11～13年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(6) P C B 処理引当金

P C B（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、翌事業年度以降に発生が見込まれる金額を計上しております。

(7) 役員報酬 B I P 信託引当金

役員に対する将来の当社株式の給付に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に割り当てられたポイントに応じた株式の給付見込額を基礎として計上しております。

4. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

5. 収益及び費用の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）

(2) その他の工事

工事完成基準

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を採用し、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

為替予約……………輸出入取引

金利スワップ……………借入金の利息

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引は全て実需に関する取引に限定し、輸出入取引に係る相場変動の相殺及び将来の支払利息に係る金利変動リスクの低減を目的としております。

(4) ヘッジ有効性の評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。また、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段の通貨種別、行使日、金額等の条件がほぼ同一であり、相関関係が高いことから、有効性の評価を省略しております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【貸借対照表に関する注記】

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 投資有価証券	4,937百万円
担保に係る債務 短期借入金	－百万円
(2) 有形固定資産	
建物	1,121百万円
構築物	3百万円
機械及び設備	279百万円
土地	59百万円
計	1,463百万円
担保に係る債務 長期借入金	800百万円
計	800百万円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 11,026百万円

3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	515百万円
長期金銭債権	17百万円
短期金銭債務	413百万円

【損益計算書に関する注記】

関係会社との取引高

営業取引による取引高	
売上高	852百万円
仕入高	1,227百万円
営業取引以外による取引高	282百万円

【株主資本等変動計算書に関する注記】

当事業年度末における自己株式の数は以下のとおりであります。

株式の種類	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	52,919	275,314	2,992	325,241

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り請求による増加214株、取締役会議決による自己株式取得による増加220,000株、役員報酬B I P信託による当社株式の取得55,100株によるものであります。自己株式の数の減少2,992株は、役員報酬B I P信託による当社株式の交付及び売却によるものであります。

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

退職給付引当金	1,237百万円
未払費用	261百万円
工事補償引当金	252百万円
賞与引当金	174百万円
たな卸資産評価損	80百万円
受注工事損失引当金	47百万円
資産除去債務	36百万円
未払事業税	33百万円
賞与未払社会保険料	28百万円
ゴルフ会員権評価損	26百万円
投資有価証券評価損	24百万円
貸倒引当金	23百万円
試験研究用設備	22百万円
役員報酬 B I P 信託引当金	14百万円
その他	20百万円
繰延税金資産小計	2,282百万円
評価性引当額	△190百万円
繰延税金負債と相殺	△1,091百万円
繰延税金資産合計	999百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	△1,090百万円
その他	△1百万円
繰延税金負債小計	△1,091百万円
繰延税金資産と相殺	1,091百万円
繰延税金負債合計	－百万円
繰延税金資産の純額	999百万円

【リースにより使用する固定資産に関する注記】

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務用機器等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

【1株当たり情報に関する注記】

1. 1株当たり純資産額 2,646円35銭

2. 1株当たり当期純利益 161円71銭

(注) 当社は役員向け業績連動型報酬制度を導入しており、役員報酬B I P信託が保有する当社株式を1株当たり情報の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。なお、当事業年度末において信託が保有する自己株式数は96,508株、期中平均自己株式数は88,157株であります。

【企業結合に関する注記】

(共通支配下の取引等)

当社は、2019年4月1日付で化工機プラント環境エンジニア(株)への当社四日市及び鹿島両工場の工事事業及びプラント事業の一部アフターサービス事業の吸収分割、(株)菱化製作所の油清浄機販売事業の吸収分割による承継を実施いたしました。

詳細につきましては連結注記表の企業結合に関する注記に記載しております。

(注) 各注記の記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。